

かほく防災記者 1・2期生レポート

仙台市長町中2年 千葉 瑞月さん

災害情報サイトで確認



千葉瑞月さん

今年8月から9月にかけて仙台市に雨が降った日に、母と災害や防災の情報を入力できる二つのウェブサイトを使ってみました。

一つは国土交通省の「川の防災情報」。川の水位や氾濫の危険性、河川カメラ画像、降雨量がリアルタイムで分かるレダー雨量などの情報を提供している。もう一つは気象庁の「土砂キキクル」で、土に含まれる雨の量から土砂災害の発生リスクを予報している。

ウェブサイトが開く。

両方とも、まず日本地図が出てくる。自分の住んでいる地域を拡大すると、洪水予報や土砂災害の危険度を確認できる。いずれも文字を入力する必要がなく、簡単に操作できて便利だ。

水害や土砂災害のウェブサイトを使う課題に取り組んだ理由は、宮城県では東日本大震災、宮城県沖地震など過去に大きな被害を出した地震に比べ、大雨の対策が十分知れ渡っていないと考えたからだ。

しかし、2019年10月に日本を縦断した台風19号では、宮城県内だけで災害関連死を含めて22人が犠牲になった。ウェブサイト機能が使われる方を発信し、大雨の被害を少しでも減らしたい。家のある地域は川が遠く、浸水想定を見ると氾濫の心配はない。それでも、避難先の周囲や避難ルートの災害リスクも

調べ、地震、水害などの災害に応じて安全が確保できるように、避難の準備をしたい。

また山も家からは遠く、土砂災害警戒区域の表示もなかった。安心して一方で、今までの大災害を振り返ると、人の予想を超えたときにこそ、多くの死傷者が出てい

る。ハザードマップなどの被害想定は一つの目安なので、ウェブサイト、テレビ、ラジオなどの災害情報を積極的に収集、活用し、判断と行動につながるものが大切だと思う。

本年度3期生が研修をしているかほく防災記者(河北新報社主催)の1期生、2期生が、災害や防災・減災に関するテーマを選び、取材、執筆したりレポートを随時紹介します。



国土交通省「川の防災情報」の河川カメラ画像(左)と水位観測所情報(右)

募集中

「3.11からの独り言」

河北新報社は震災13年の取り組みとして、東日本大震災を経験して感じたこと、心に残っている場面などを、おおよそ五・七・五でつづった短文「独り言」を募集します。地震や津波のこと、復興のこと、支援のこと、思い出せる人は短文を作成して、記憶を記録するとともに、応募してみませんか。

寄せられた独り言は河北新報オンラインなどで紹介する予定です。

応募方法

- 専用の入力フォームで受け付けます。締め切りは2024年1月31日
- 河北新報オンラインのピックアップか右記の二次元コードから接続してください
- 連絡先 防災・教育室 022(211)1591 メール hitorigoto@po.kahoku.co.jp



お母さんが静かになれば心静かに... 頑張るってって何をして頑張るの... 役に立つグッズ持ち出せ... 質問士カレできな... 不安な確認... 手書きで... 知らない 簡易トイレの使い方

我が家では 地震に上用に 越しな... 何もせず 家を無事には 偶然だ...



一つの正解 求められても 持ってません 炊き出しの 味ホナグッド おらしょっぺー

